

<2013.5.30 経済産業委員会>

○はたともし君 生活の党のはたとしここでございます。

参考人の先生方、今日は大変貴重なお話をありがとうございます。

私は、中小企業家同友会の北山参考人、また日本チェーンストア協会の清水参考人、お二人に伺いたいと思います。

私たち生活の党は、四月二十二日の政策勉強会におきまして、中小企業家同友会全国協議会の瓜田政策局長から、アベノミクス、中小に及ばず、円安の影響で単価が大きく上昇し、採算が圧迫されているという内容のお話を伺いました。

その直後の四月二十五日の予算委員会におきまして、私は日銀の黒田総裁に、円安にはメリットとデメリットがあると思うが、これ以上の円安は日本経済にとってむしろデメリットの方が大きいのではないかと質問をいたしました。これに対して黒田総裁は、為替水準のレベルや動きについては具体的にコメントすることは差し控えたいと思うがとの前置きの上、次のように答弁をされました。「例えば先週開かれました私どもの支店長会議でも、委員御指摘のように、中小企業を中心に仕入価格の上昇を懸念する声が聞かれたわけですが、その一方で、輸出企業の収益あるいは先行きの業況感が改善していて、全体として景況感は各地域とも改善したという報告がございました。今後、政府の各種の財政政策、あるいは日本銀行の量的・質的金融緩和によって、日本経済が全体として改善していくということが中小企業の業況の改善にもつながるといふふうに考えておきまして、その動向は引き続き注視してまいりたいと思います。」という御答弁でございました。

そこで、北山参考人と清水参考人に私は同じ質問をさせていただきたいと思いますが、これ以上の円安は日本経済にとってデメリットの方が大きいのではないかと思います。御見解はいかがでしょう。

○参考人(北山輝夫君) 先ほどお話をしましたが、為替は私の個人的な判断だと九十五円ぐらいで止まっていたのが一番いいかなと、こういうふうに思っています。

今中国の方から私どももコンテナで商品を輸入しているんですが、それ以外にいろんな関係の方との話を聞きますと、来月六月辺りから値段の値上げの話が一斉にやっばり出てくると思います。これはありとあらゆる生活必需品に関するようなところはもうほとんどと言っていいほど値上げの話のオンパレードになるんだというふうに思っています。

そうなってくると相当厳しいという局面に、弱者と言われているような方たちが実感として困ったなというふうになってくるんだらうというふうに思いますけれども、それについては所得が上がってまだこないというふうなところと併せてかなり厳しい状況だという認識をまず持っていたきたいのと、そういう中で今年の秋口から暮れにかけていい面が出てくるのであれば、来年の四月の消費税導入のことについては仕方ないかなというふうな気持ちで受け入れられるでしょうけれども、当然厳しいこの状況が続けば、かなり反発なりそういうものが出てきたりしても仕方ないかなと、こういうふうに思っています。

○参考人(清水信次君) いや、この問題は、日本だけで考えると間違うので、日本は世界相手に闘っているんですから、その中でどうすべきかと。

前は、一千兆の日本は債務があるということを非常にマスメディアもうたい上げて、皆が行き先どうなるんだらうということでデフレ経済が二十五年も続いたんです。その反動で、今安倍政権が緩めておられるけれども、これは日本の経済史、金融史を見れば分かるんで、高橋是清さんがそれを一生懸命矢面に立ってやって、その必要性から軍縮をやったので陸軍の反発を受けて、八十二歳で、大蔵大臣六回もやって総理大臣やった人が射殺された。しかも、陸軍の現役将校二千人の麻布連隊動員してやったことだ。だから、こういう問題はなかなか難しいので、今日銀の総裁の話が出たけれど、かつては日銀の独立性、独立性と言ったけれども、そんなことはあり得ないんで、これはもう国家と運命共にすべき存在で、国が潰れて、あるいは国民が困窮して日銀が生き

残るとか独立を保つとかそんなことはあり得ないんで、これはもう国家と日銀は一体であるというのが僕らが生きてきた歴史の証人。

今、残念だけれども、国政やっておられる皆さん、まあ亡くなった総理大臣、年数えると七十代、八十代もおるんですよね。今は五十何歳でしょう。だから、僕らより三十歳も下だけど、残念ながら、経験とそれから、ハートもいいし頭もいいし、よく勉強しておられますけど、最後土壇場の、切った張った、生きるか死ぬか、勝つか負けるかのこの土壇場の度胸が欠けているんですよね、今の人。だから、ひとつ政治がしっかりしなきゃ国は駄目ですよ。幾ら経済がどうだ、あるいは行政官僚が優秀だといったって、ここの永田町の議員、衆議院、参議院がしっかりしてもらわなきゃ駄目なの。だから、もう値段がどうのこうの、税率がどうのこうのより、この国どうするかという議論をやっていたきたい、それをお願いします。

**○はたともし君** では、北山参考人に伺いたいと思います。

私は、将来の課題として、消費税、すなわち付加価値税を抜本改革をして複数税率とする、その場合は食料などを軽減税率とするのではなくて、インボイスを導入をして、例えば大企業は一〇%、中小企業は五%の軽減税率とするなどのことを検討すべきではないかと考えておりますが、北山参考人、この問題について改めて御見解を伺いたいと思います。

**○参考人(北山輝夫君)** 私は、もちろんいろんな形のシステムがあるんでしょうけれども、まずその前提として、国の歳出削減をやっぱり国民に徹底的に開示して、そしてこういう形で向かうんだということからまずすることが条件じゃないかなというふうに思いますね。そこのところが十分説明をされれば、社会保障の方の枠組みはこういうような形で、消費税をこういう形で充てますよというふうな形で出てきて、そしてこういうシステムが、まあ食品のことについてもインボイスのことについてもいろんな方策が出てくるでしょうけれども、私はそれはいろんな形があってもいいというふうには思います。それについて私がどうのこうの言う今見解を持っていませんけれども、前提としてその辺りのことを期待したいというふうに、あるいはお願いをしたいというふうにまず思いますね。

**○はたともし君** 清水参考人に、細かいことで恐縮なんですけど、伺いたいと思います。

私は、適切な成長戦略と同時に、一方で月二万六千円の子ども手当ですとか月七万円の最低保障年金など、国民所得の向上に直接寄与する財政政策によって日本経済を前進させることが極めて重要であるというふうに考えておりますが、清水参考人の御見解はいかがでしょうか。

**○参考人(清水信次君)** 成長戦略は、小泉さんも随分言ったけど結局できなくて、その後日本の経済は沈滞したんですが、成長、成長といったって、そんな口で言ったり文字で書くほど簡単な問題じゃないんで。

それからもう一つは、国の借金の一兆、盛んに、最近はおっしゃいませんが、ところが昨日の新聞でも、日本の在外資産は二百九十六兆あると。それから国民の金融資産が千四百五十兆あるんです。だから、それと日本の企業、個人、それから国家が持っているいわゆる社会資本、これを全部合わせると八千兆ぐらいになるんです。だから、何をあんなに恐れて収支の問題言うか。それはアメリカなんかは日本の十倍の国家借金ですよ、一京三千何百兆です。だから、もうちょっと度胸を据えてやってもらえば、ただ、国民所得はパーヘッドで四百六十万ぐらいあったのが今減って四百二、三十万になっている、これはちょっと悲しい数字ですけども。

ただ、先ほどおっしゃったけど、国家の歳出の縮減とか削減言っておられるけど、これは国民がやっぱり高い生活水準の要求を次から次にされて、それで医療費だけでも四十兆円要るとか、あるいは先ほどの子ども手当の問題とか。本来子供は、昔はあなた、一家庭大体六人、十人子供あったって国家補助をもらったりそんなことで、賄えなくてみんなが歯を食いしばって助け合って。昔はあなた、そんな冷暖房もなきゃ水洗トイレ

しもなかったし、皆家にお風呂もなかったので、今はそういうことじゃなしにこんな生活して、それでまず財政を削減せいと言ったって、国民が自覚して、それじゃ今の生活水準一〇%か二〇%節約したらどうだと。宇宙から見て一番明るいのは地球じゃ日本だというぐらい明るい、使い放題照明も使っている。

だから、いろいろ僕らが戦前、戦中あの苦しい生活やって、戦後のあの立ち上がりを、みんなが頑張って二十三年掛かって世界第二位を築き上げた。それから四十五年間、今こんないい平和な豊かな生活をして、いささかたがが緩んで、文句ばかり言って要求ばかりして、自分たちが努力しない、働き過ぎとかゆとり教育とかなんていって全部駄目になった。これをひとつ変えてほしいので、だから、そうしたらいろんな問題、皆解決しますよ。本来日本人というのは、本当に正義感が強いし、礼儀正しいし、勤勉で、こんないい国民ないんですから、これはもう政治でひとつもう一回新しい日本国をつくっていただきたい。そうしたらもう全て解決できると。あの負債の問題なんか問題じゃないですよ。

○はたともこ君 終わります。ありがとうございます。